

中期の経済・生活者動向を踏まえたビジネス展望

主催：広報部 2009年1月22日（大阪）、27日（東京）

標題のフォーラムをヒルトン大阪と帝国ホテル東京で開催し、企業経営者を中心に多くの方々に参加いただいた。野村総合研究所（NRI）取締役会長兼社長の藤沼彰久の開会あいさつに続き、以下の2講演を行った。

■中期経済の展望——ポスト「ドル資本主義」を見据える世界と日本（野村証券金融経済研究所 西澤隆氏）

この10年の世界経済は、各国がドルを獲得するために行動してきた「ドル資本主義」だったと定義づけたうえで、2007年後半を境としてそうした世界経済の構造は大きく変わってきたとし、その観点から、ポスト「ドル資本主義」について考察した。

ドル資本主義とは、新興国は輸出で稼いだドルを使わずに運用し、また、米国は資産価格上昇を背景に消費を拡大させてきたことをいう。しかし、住宅バブルの崩壊や石油価格の下落によって米国は借金返済に追われ、このドル資本主義の構造は崩壊した。これが現在の世界的不況で、ここから脱出するため、中国は公共投資を起爆剤とする内需主導を促進させ、その結果、ドルは人民元に対し弱含む方向に向かうと予測した。こうした世界経済の構造変化を踏まえ、日本は新興国の内需を見据えて次の展開を考えるべきだと提言した。

最後に国内に目を転じ、世界的な金融不況、人口減少、資源問題、環境問題などをマイナスととらえず、地方ですで見られ始めたコンパクトシティ化の動きを推進し、「まちなか居住」を前提とした街づくりや、農業ビジネスの再評価をしていくべきであると締めくくった。

■2015年の生活者と企業戦略——「スマートライフ」に対する企業からのアプローチ（NRIサービス事業コンサルティング部 日戸浩之）

社会の成熟化、家族・人間関係の多様化、地球環境問題といった環境の変化を背景に、生活者の価値観が変化してきていることを、これまでNRIが生活者1万人に対して実施してきたアンケート調査結果を引用しながら解説した。その変化とは、「買わない、持たない、今は決めない、拘束されたくない」という志向の高まりであり、結果としてモノが売れない時代になっていると分析した。

そのような時代には、新しいライフスタイルである「スマートライフ」が登場すると予測した。スマートライフスタイルとは、「賢くスリムに、少ない支出で自分自身を最大限、楽しむライフスタイル」と定義。このスタイルに対応する企業からのアプローチとして、①「所有」から「使用」を前提とした新たな価値の提供形態、②二次マーケットの創造・拡大、③コミュニティの活用——を提案した。その萌芽事例として、カーシェアリングや住宅リノベーション（大規模改修による資産価値向上）といった事例を紹介した。

講演後の懇親会では、参加者と講演者、NRIの役職員がなごやかに歓談した。参加者からは、「興味深い講演内容だった」といった声が多く寄せられた。

.....
本セミナーについてのお問い合わせは下記へ

広報部 瀬戸優花子

電話：(03) 6660-8370

電子メール：kouhou@nri.co.jp